

PAT-NO : JP362263270A
DOCUMENT-IDENTIFIER : JP 62263270 A
TITLE : PRESSURE-SENSITIVE ADHESIVE
COMPOSITION
PUBN-DATE : November 16, 1987

INVENTOR-INFORMATION:
NAME
FUKUMOTO, HIROSHI

ASSIGNEE-INFORMATION:
NAME COUNTRY
FUKUMOTO HIROSHI N/A

APPL-NO : JP61105642
APPL-DATE : May 8, 1986

INT-CL (IPC) : C09J003/00
US-CL-CURRENT: 524/285

ABSTRACT:

PURPOSE: A pressure-sensitive adhesive composition which has no adhesivity at normal temperature, develops adhesivity when heated to ≥fixed temperature and keeps adhesivity afterward even if returned to normal temperature, comprising a resin substance and a solid plasticizer as main components.

CONSTITUTION: A pressure-sensitive adhesive composition comprising a blend of (A) a resin substance (e.g. styrene-butadiene rubber latex, etc.) and (B) a solid plasticizer (e.g. dicyclohexyl phthalate, etc.) as a

main component.

COPYRIGHT: (C) 1987, JPO&Japio

DERWENT-ACC-NO: 1987-359833

DERWENT-WEEK: 198751

COPYRIGHT 1999 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Tackified adhesive compsn. requiring
no release paper - comprises mixt. resin and solid
plasticiser

PATENT-ASSIGNEE: FUKUMOTO H [FUKUI]

PRIORITY-DATA: 1986JP-0105642 (May 8, 1986)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE
LANGUAGE	MAIN-IPC
JP 62263270 A	November 16, 1987
004	N/A

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO
APPL-DATE		
JP 62263270A	N/A	
1986JP-0105642	May 8, 1986	

INT-CL (IPC): C09J003/00

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 62263270A

BASIC-ABSTRACT:

The compsn. comprises mixt. resin and solid plasticiser. Its tackiness is not activated at ordinary temp. The solid plasticiser is added to the mixt. in sufficient quantity to activate tackiness by plasticising the resin, when it is mixed with the synthetic resin by heating and melting. Anaerobic adhesive is also added to the tackified adhesive compsn.

USE/ADANTAGE - This compsn. requires no release paper for storage or

transportation. Addition of anaerobic adhesive improves heat resistance because hardening of anaerobic adhesive after sticking changes tackiness state into the adhesion state. The compsn. is used for wallpaper, flooring and car interior finish work. The omission of release paper reduces costs.

CHOSEN-DRAWING: Dwg.0/0

TITLE-TERMS: TACKIFIER ADHESIVE COMPOSITION REQUIRE NO RELEASE PAPER COMPRISE
MIXTURE RESIN SOLID PLASTICISED

DERWENT-CLASS: A18 A81 G03

CPI-CODES: A08-P01; A12-A05; G03-B02;

UNLINKED-DERWENT-REGISTRY-NUMBERS: 5134U

POLYMER-MULTIPUNCH-CODES-AND-KEY-SERIALS:

Key Serials: 0009 3003 0222 0044 0231 0306 3159 0409 1095
1294 3320 2231 2232
2307 2386 2430 2437 2504 2522 2600 3252 2669 2682 3260 2684
2694 2698 2725 2726
2728 3300 2829

Multipunch Codes: 014 032 034 04- 055 056 06- 074 075 076
09- 117 122 13- 150
165 230 259 27& 303 311 315 331 36& 397 402 408 409 42& 431
436 442 443 47& 477
50& 502 504 54& 541 57& 597 600 609 613 614 618 672 688

SECONDARY-ACC-NO:

CPI Secondary Accession Numbers: C1987-154244

⑫ 公開特許公報 (A) 昭62-263270

⑬ Int.Cl.⁴

C 09 J 3/00

識別記号

JBC

庁内整理番号

7102-4J

⑬ 公開 昭和62年(1987)11月16日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 粘着剤組成物

⑮ 特願 昭61-105642

⑯ 出願 昭61(1986)5月8日

⑰ 発明者 福元 宏史 西宮市段上町5丁目10番28号

⑱ 出願人 福元 宏史 西宮市段上町5丁目10番28号

⑲ 代理人 弁理士 宇佐見 忠男

明細書

〔発明の背景〕

この種の粘着剤は基材表面に塗布されて常温で粘着性を有する粘着層を形成するが、このような粘着層を表面に形成した基材は該粘着層の粘着性のために保管あるいは輸送中に他の物に粘着してしまう。

〔従来の技術〕

そこで従来、粘着層を表面に形成した基材を保管あるいは輸送するためには粘着層を離型性シートで被覆して保護していた。そして使用に際しては該離型性シートを粘着層から剥離していた。

〔発明が解決しようとする問題点〕

しかし上記従来技術においては使用の際粘着層から剥離した離型性シートは多くの場合廃棄するしか方法がなく、したがって離型性シートが無駄になりしかも廃棄された離型性シート処分に手間を要するものであった。

〔問題点を解決するための手段〕

本発明は上記従来の問題点を解決する手段として、樹脂物質と固形可塑剤との混合物を主体とし

1. 発明の名称

粘着剤組成物

2. 特許請求の範囲

- (1)樹脂物質と固形可塑剤との混合物を主体とした粘着剤組成物には、常温で粘着性を有せず、該固形可塑剤は加熱溶融されて該合成樹脂と混合された時に該合成樹脂を可塑化して粘着性を発現せしめるに充分な量が添加されていることを特徴とする粘着剤組成物
- (2)該粘着剤組成物には更に嫌気性接着剤が添加される「特許請求の範囲第(1)項」に記載の粘着剤組成物

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は常温で粘着性を有しないが所定の温度以上に加熱すると粘着性を発現し、以後は常温に戻しても粘着性が消失しない粘着剤組成物に関するものである。

常温で粘着性を有せず、該固体可塑剤は加熱溶融されて該合成樹脂と混合された時に該合成樹脂を可塑化して粘着性を発現せしめるに充分な量が添加されていることを特徴とする粘着剤組成物を提供するものである。

本発明に用いる樹脂物質とはメチルアクリレートまたはメタクリレート、メチルアクリレートまたはメタクリレート、イソプロピルアクリレートまたはメタクリレート、ノルマルブチルアクリレートまたはメタクリレート、2-エチルヘキシルアクリレートまたはメタクリレート、シクロヘキシルアクリレートまたはメタクリレート、ラウリルアクリレートまたはメタクリレート、ステレン、 α -メチルスチレン、酢酸ビニル、プロピオノ酸ビニル、塩化ビニル、塩化ビニリデン、アクリロニトリル、メタクリロニトリル、沸化ビニル、沸化ビニリデン、 β -ハイドロキシエチルアクリレートまたはメタクリレート、 β -ハイドロキシプロピルアクリレートまたはメタクリレート、アクリル酸、メタクリル酸、マレイン酸、マレイン酸

モノエステル、イタコン酸、イタコン酸モノエステル、クロトン酸、シトロコン酸、アクリルアミド、N-メチロールアクリルアミド、N-メトキシメチルアクリルアミド、N-エトキシメチルアクリルアミド、N-ブトキシメチルアクリルアミド、N-メチロールメタクリルアミド、N-メトキシメチルメタクリルアミド、N-ブトキシメチルアクリルアミド、グリジルアクリレートまたはメタクリレート、グリジルアリルエーテル、ジメチルアミノエチルアクリレートまたはメタクリレート、ジメチルアミノイソプロピルアクリレートまたはメタクリレート等のビニル化合物、エチレン、プロピレン等のオレフィン、ブタジエン、クロロブレン、イソブレン等のジオレフィン等の重合可能な α - β 不飽和化合物の単独重合体もしくは上記 α - β 不飽和化合物の二種以上の共重合体、あるいは上記 α - β 不飽和化合物の一種もしくは二種以上とジアリルフタレート、ジビニルベンゾール、エチレングリコールジアク

リレートもしくはメタクリレート等の多価ビニル化合物の若干量との共重合体、あるいは天然ゴム、アラビアゴム、ダンマルガム、コーパル、ロジン、ゼラチン、ガゼイン、穀粉、変性穀粉等の天然樹脂物質、ポリアミド樹脂、ポリエステル樹脂、ポリウレタン樹脂、石油樹脂、テルペン樹脂、クマロン樹脂等すべての合成樹脂、合成ゴム、天然樹脂、天然ゴムを含むものであり、実質的には熱可塑性を有するものである。上記樹脂物質は単独もしくは二種以上混合されて用いられる。

本発明に用いられる固体可塑剤とは常温では固体で所定の温度、即ち融点以上に加熱すると溶融して上記樹脂物質に相溶する化合物を指し、該化合物としては例えばシクロヘキサノール、ベンジルアルコール、フルフリルアルコール等の環式アルコールと、シウ酸、マロン酸、マレノン酸、フマル酸、コハク酸、グルタル酸、アジピン酸、フタル酸等のジカルボンとのジエステルがある。

上記樹脂物質と上記固体可塑剤とは所定の比率に混合されるが、該所定の比率とは得られた混合

物が常温では粘着性を有しないで、該固体可塑剤の融点以上に加熱した時に粘着性が発現されるような比率であり、このような比率は樹脂物質の軟化点、樹脂物質と固体可塑剤との相溶性等により適宜調節されるものであり一律に限定することは出来ない。

上記樹脂物質と上記固体可塑剤とを混合するには乾式混合、あるいは上記樹脂物質の上記固体可塑剤を溶かさない溶媒あるいは分散媒を用いた溶液、サスペンション、エマルジョン等に上記固体可塑剤を添加混合する湿式混合等の方法が用いられる。上記固体可塑剤を溶かさない溶媒あるいは分散媒としてもっとも一般的なものは水である。

上記成分以外、本発明においてはテルベンダイマー、エステルガム、ジブチルフタレート、ジオクチルフタレート、トリクロジルホスファート等の粘着付与剤もしくは可塑剤、フェノール樹脂、メラミン樹脂、尿素樹脂、エポキシ樹脂等の熱硬化性合成樹脂、あるいはメタクリル酸とエチレングリコール、プロピレングリコール、ピナコール、

グリセリン、エリスリット等の多価アルコールと
の多価エステルである嫌気性接着剤、トルオール、
キシロール、メチルエチルケトン、メチルイソブ
チルケトン、酢酸エチル、酢酸ローブチル、セロ
ソルブアセテート、メタノール、エタノール、ロ
ーブタノール等の有機溶剤、タルク、ベントナイト、
炭酸カルシウム等の充填材等が添加されても
よいが、固体可塑剤を溶解させる成分は組成物に
おいて固体可塑剤が溶解しないよう少量の添加量
にとどめるべきである。

本発明の粘着剤組成物は通常紙、繊維織物、
不織布、プラスチックフィルム、プラスチック發
泡体シート等の基材表面に塗布される。そして水
等の溶媒もしくは分散媒を含んでいる場合には添
加されている固体可塑剤の融点以下の温度によっ
て乾燥され、表面に粘着性のない粘着剤層を有す
る基材が得られる。

[作用]

本発明の作用は下記の通りである。

該粘着剤組成物を含有する固体可塑剤の融点以

上に加熱すると、該固体可塑剤が溶融して樹脂物
質と相溶して永久的な粘着性が発現する。該粘着
剤組成物に嫌気性接着剤が混合されている場合、
上記のように加熱して粘着性を発現させてから貼
着すると空気が遮断され該嫌気性接着剤は硬化す
るから粘着が接着に移行する。

[発明の効果]

したがって本発明においては本発明の粘着剤組
成物による粘着剤層を表面に形成した基材は常温
では全く粘着性を有しないから保管、輸送等に離
型紙は全く不要であり、更に嫌気性接着剤を添加
しても離型紙によって空気を遮断されることはな
いから貼着後嫌気性接着剤を硬化させて粘着を接
着に移行させることにより耐熱性を著しく向上
させることが出来る。

本発明は壁紙、床材、自動車内装材等に適用さ
れ離型紙を省き大巾を合理化を可能ならしめるも
のである。

実施例1.

下記の成分を混合する。

ステレン-ブタジエンゴムラテックス 80重量部
(50重量%)

石油樹脂エマルジョン(50重量%) 20重量部

ジシクロヘキシルフタレート(粉末) 20重量部

ポリアクリル酸ソーダ 1重量部

上記混合により得られた粘着剤組成物はポリウ
レタン發泡体シート表面に200g/m²の量で塗布
され40°Cで通風乾燥されて常温で粘着性を有し
ない粘着剤層を形成する。該粘着剤層は70°C以
上に加熱すると粘着性を発現して該ポリウレタン
シートはプラスチック面、金属面等に貼着するこ
とが可能になる。

実施例2.

温度計、攪拌器、コンデンサーを付した1lフ
ラスコに下記の処方を仕込み、攪拌しつつ80°C
に加熱する。

水 450g

ポリオキシエチレンアルキルエーテル 40g

ジアルキルスルホサクシネート 10g

次いでアンモニラムバースルフェイト1gを挿
入溶解せしめた後80°Cを維持して下記の処方
の単量体混合物を4時間にわたって滴加する。

酢酸ビニル 270g

2-エチルヘキシルアクリレート 280g

上記単量体混合物滴加後2時間、80°Cを維持
した後室温に冷却して合成樹脂エマルジョンAを得
る。

下記の成分を混合する。

合成樹脂エマルジョンA 70重量部

ロジンエマルジョン(50重量%) 30重量部

ジシクロヘキシルアジペート 16重量部

上記混合により得られた粘着剤組成物は壁紙裏
面に150g/m²の量で塗布され80°Cで通風乾燥
されて常温で粘着性を有しない粘着剤層を形成す
る。該粘着剤層は160°C以上に加熱すると粘着
性を発現して壁基材面に貼着することが出来る。

実施例3.

実施例2と同様なフラスコに下記の処方を仕込み、搅拌しつつ75°Cに加熱する。

水 450g

ポリオキシエチレンアルキルエステル 35g

アルキルアリルスルホン酸ソーダ 15g

次いでカリウムバースルファイト1gを投入し溶解せしめた後75°Cを維持して下記の処方の量体混合物を4時間にわたって滴加する。

メチルメタクリレート 250g

2-エチルヘキシルアクリレート 240g

ジアリルフタレート 10g

上記単独体混合物滴加後3時間75°Cを維持した後室温に冷却して合成樹脂エマルジョンBを得る。

下記の成分を混合する。

合成樹脂エマルジョンB 90重量部

テルペンダイマーエマルジョン
(50重量%) 10重量部

ジシクロヘキシルフタレート 20重量部

メトキシセルロース 2重量部

スチック等の基材面に貼着することが出来、貼着後にエチレングリコールジメタクリレートが空気を遮断されることにより硬化し接着に移行する。

上記混合により得られた粘着剤組成物は繊維機物裏面に250g/m²の量で塗布され40°Cで通風乾燥されて常温で粘着性を有しない粘着剤層を形成する。該粘着剤層は60°C以上に加熱すると粘着性を発現してダンボール、レジンボード、鉄板等の基材面に貼着することが出来、耐熱性ある粘着を提供する。

実施例4.

実施例2の合成樹脂エマルジョンAを用いて下記の配合を行う。

合成樹脂エマルジョンA 70重量部

石油樹脂エマルジョン(50重量%) 25重量部

エチレングリコールジメタクリレート 5重量部

ジシクロヘキシルフタレート 15重量部

上記混合により得られた粘着剤組成物はエチレンプロピレンゴムシート表面に150g/m²の量で塗布され40°Cで通風乾燥されて常温で粘着性を有しない粘着剤層を形成する。該粘着剤層は70°C以上に加熱すると粘着性を発現して金属、プラ

特許出願人

福元宏史

代理人

宇佐見忠男

